

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190100166		
法人名	医療法人 至誠会		
事業所名	グループホーム あかり		
所在地	佐賀市本庄町大字本庄264-1		
自己評価作成日	令和2年10月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和2年11月10日	外部評価確定日	令和2年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様へ対する言葉使いについては各職員特に気を付けて対応を行っています。 また令和2年10月より【利用者会議】を行うこととしました。利用者様同士集まって話し合いを行って頂き、意向の確認を行うことでレクリエーションや行事の充実につなげていければと思っております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>広い敷地の医療法人グループ内に「あかり」は位置している。隣には保育園があり、園児との交流は利用者の楽しみでもある。病院とも隣接しており、定期的な診察だけでなく緊急時や体調の変化にも早期に対応や連携ができ、利用者や家族も健康面・医療面に安心感をもっている。また、近くには、スーパーマーケット、住宅街、小学校、大学もあり、利用者は散歩等をしながら、地域の様子を感じながら暮らすことができる環境である。</p> <p>利用者の支援にあたっては、利用者の尊厳を尊重することを基盤にしている。毎年、職員一同で次のステップに向けて取り組む目標を話し合っている。本年度は特に「目上の人として敬意を持ち、丁寧に接すること」を目標にして日常の支援に臨んでいる。また、利用者の社会参加の意義も含めて「利用者会議」を開いている。利用者にも好評で、職員も発言内容をしっかりと受け止め、支援に活かしている。</p> <p>現在は新型コロナウイルス感染防止に万全を期しており、日常の散歩や気分転換を兼ねた公園等への外出も出来ず、家族や外来者との面会も出来ないが、ホーム内で「夏まつり」「敬老会」などの行事内容を工夫し、利用者の日常生活に楽しみをもってもらえる様になっている。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	本年度は「住み慣れた地域でその人らしく生活できるよう支援する。」と掲げている。職員が目につきやすいよう、事務所内に掲示している。現在コロナウイルス感染予防の為、地域行事への参加は行えていないが、施設内でのレクリエーションや行事が充実できるよう支援を行っている。	年度末に理念を含めて一年間の反省と、次年度の目標を話し合っている。そして利用者が地域の中でおだやかに暮らしてもらう事を願いながら、毎日の支援に臨んでいる。理念の掲示と毎日の唱和は、より理念をしっかりと受け止め、一体感を高めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度についてはコロナウイルス感染予防の為行事への参加は実施できていない。	これまでは、地域の避難訓練や地域行事に参加する等、地域との交流が深まりつつあったが、今年度はコロナウイルス感染防止のため、地域との関わりが持てていない。地域の情報は自治会長より情報を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度についてはコロナウイルス感染予防の為行事への参加は実施できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議についてもコロナウイルス感染予防の為実施できていない。行事の報告や取り組みについては、広報誌でご家族には毎月発行している。	年6回の開催を計画していたが、現在はコロナウイルス感染予防のため開催されたいない。関係者には諸情報を提供し、共有化を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点等があれば、電話連絡を行っている。	管理者が中部広域連合事務所の関係部署に出向いて事業所の現状を伝えたり、電話で情報交換や疑問点を話し合う等、行政とは連携が保たれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内にて研修、勉強会を開催しており身体拘束について学ぶ機会がある。また新人オリエンテーションでも教育の機会を設けている。玄関は自動ドアになっており以前は日中のみではあるが開放していたが、現在はコロナウイルス感染予防の為、閉じている。	身体拘束の事例は無い。研修会や勉強会を通して身体拘束の利用者に与える弊害について、十分に認識している。スピーチロックも無い。利用者は心理的にもおだやかで安定した状態にある。玄関の施錠は、感染症防止のためには止むを得ない現状である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様に施設内にて学ぶ機会がある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族様より相談等があれば助言を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学や、契約の際に十分に説明を行い、署名、捺印を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に公的な苦情窓口を重要事項説明書に記載しており説明を行っている。苦情箱についても一階に設置している。	これまでは面会時に特に要望や意見等を伺い、早期に運営に活かしてきたが、現在は面会をお断りしており、顔を合わせての意見等は伺っていない。毎月発行の便りで暮らしの様子を伝えたり、電話やメール等で要望等を伺っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員がケアの相談や業務について相談をしてくれている。管理者からも同様。また月に1度会議を設けており意見について話し合い職員と今後の意向について決定している。	毎月、部長、事務次長、管理者も出席しての定例会議が開かれている。職員から、業務内容の見直し、感染症防止対策、設備等の改善、より質の高い支援の在り方、その他多岐にわたって要望や意見が出され、運営に反映されている。諸情報等の周知徹底も出来ている。また、管理者は日頃から職員と信頼関係を築くように配慮し、お互いに率直に意見等を出し合い、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	福利厚生は充実しており有給も消化できるよう心掛けている。緊急時以外は残業もなく働きやすい環境を整備できている。職員の評価についても年2回管理者が行っており結果を本人に通知される。院内アンケートやストレスチェックも実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には等級があり、院内にて等級別の研修が開催されている。(今年度はコロナウイルス感染予防の為未実施)外部の研修にも参加しやすく費用も法人が負担するケースが多い。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の関わりについてはコロナウイルス感染予防の為、今年度未実施。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にお話する時間を設け要望や不安を聞いている。職員はコミュニケーションを意識的に密に行っている。目や耳には伝わらないものについては言動からアセスメントを参考にし生活歴や性格を考慮し本人様やご家族様に確認しサービスに生かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族様にこちらから要望や不安を聞くようにしている。緊張感がないよう場を和ませゆっくりお話しを伺うよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学の段階ではコロナウイルス感染予防の為、写真等を使用することで安心して入居することができるよう対応している。介護施設に関して知識がないご家族様も多く、その際は他の介護施設のご案内を提案しており、他種別の比較とご検討もして頂けるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームであるため、料理や掃除、洗濯を入居者様と実施している。季節の壁紙なども入居者様を中心に制作している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルス感染予防の為、面会制限が続いている。家族と面会できない為、本人と電話で話をさせて安心して頂くなどの対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	携帯電話にて交流を図られている入居者様もおられる。面会についてはコロナウイルス感染予防の為実施できていない。	これまでの関係継続を願っての諸支援が行われていたが、現在は家族や知りあいとの面会、家族の協力を得ながらの外出、楽しみだった同窓会への出席、かつて馴染んだ公園等へのお出かけも実現が出来ない状況である。利用者に楽しんでもらう様な施設内で行事の工夫、季節に合わせた掲示物の共同作成、会話の話題に変化をもたせる等、これまでの関係継続に代わるものを工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の言動を観察し入居者様同士の相性を把握している。席もその点を考慮し決定している。家事を行っていただく際は交流がもてるよう複数人で協力して頂けるよう支援している。また季節の壁紙も入居者様で協力し製作して頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了すると、こちらから連絡等を行うことはほぼない。ご家族様より連絡があった際のみ対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃よりコミュニケーションを密に図り、本人様の意向や要望を把握できるよう努めている。またケアプラン作成時にも毎回要望や意向を確認している。可能な限り要望に沿ったプランを作成している。	入居時の諸情報は勿論、入居後もあらゆる場面で利用者の思いや意向の把握に努めている。新たに始めた「利用者会議」は利用者の社会生活参加のねらいもある。利用者全員が一言でも発言がほしいとの願いがある。利用者にも好評で、職員も発言内容をきちんと受け止めて支援に結び付けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様から得られる情報とご家族様からもお話を伺い情報を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録にて日々の生活を把握している。本人からもお話を伺い随時、職員間でケアについても話し合っており本人様の現有機能等について議論し介入方法を検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を開催し現状を踏まえた介護計画の作成を行っている。	利用者や家族の意向をきちんと受け止めた、利用者主体の介護計画である。支援目標と内容の関連性も具体的で実現可能なものである。アセスメントシートも工夫し、利用者の諸情報が多面的に把握されている。担当者会議にあたっては、検討すべき意見を持ちよっての話し合いである。評価、計画の見直しもその時の状況に応じて臨機応変に行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は経過記録に記載している。入居者様別の申し送りノートがあり、特記事項は経過記録を別に記載をしている。出勤時に必ず閲覧しておりサインを記載している。緊急性があれば早急に意見交換を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	見学の際に他種別の検討もできるよう法人内の介護施設をご案内させて頂いている。また入居後もご家族様からの相談や職員からの意見を踏まえ他施設への紹介や支援を行っている。可能な限りは当施設で対応できるよう検討を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在コロナウイルス感染予防の為実施できていない。施設内行事にて楽しみの提供を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内に病院があり協力医療機関として月に2回主治医が訪問診療を実施している。その際に本人様からの体調の相談や職員からの状態報告を行っている。眼科等の専門医の受診はご家族様、本人様の意向に沿い他病院を受診して頂いている。体調不良時はご家族様に報告し、受診結果をその後、報告している。	利用者と家族が希望する病院での受診である。現在は、利用者全員が協力医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関とは、何時でも相談や受診ができる状況である。受診に際しては、職員が付き添い、支援している。主治医の定期的な訪問診察もあり、家族も健康・医療面に安心感を持っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内に訪問看護があり週に1度健康チェックを実施している。また体調面で気になる点があれば、その都度報告し連携を図っている。受診結果も報告している。新入居があれば情報提供を紙媒体で行っている。夜間でも異常があれば報告し必要があれば来所され早期に対応できるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の場合、法人内の病院に入院するケースが多い。入退院支援室のSWと情報交換を行っている。また病棟に向き面会や病棟スタッフへの聞き取りにて現状の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の指針を説明し同意を頂いている。終末期については意思疎通は図っており、状態に応じて随時ご家族様に意向を伺っている。本人様の状態に応じて病気の面では主治医、看護師に説明をして頂き、それを基に事業所でケアの方向性については共有している。	重度化に伴う支援についての指針があり、契約時に指針を基に丁寧に説明し、利用者や家族と納得のいく話し合いが行われ、意思確認書をもっている。これまでに看取り介護の事例もあり、家族や主治医、関係者と状況に応じてその都度連絡や相談を行い、安らかな最期を迎えることができるようにと支援している。終末期にあっては家族も泊まりも可能である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は実施できていない。緊急時のフローチャートを作成し事務所に掲示している。職員全員が緊急時に対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度についてはコロナウイルス感染予防の為実施できていない。	例年、消防計画に基づき、2回の避難訓練を実施している。日中、夜間の火災想定で、エレベーターが使用出来ないことも想定しての避難訓練である。今年も本年度中に実施する予定で、まず12月に計画されている。地震、水害、台風などの自然災害時のマニュアルも備えている。非常食、飲料水の備蓄もある。	感染症拡大の有無に関わらず、災害は何時おきとも限らない。たとえ避難訓練等が実施出来なくても、地域との協力体制の構築を含めて、災害に備えた対策の再検討を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	写真の使用については同意書を頂き実施している。入浴、排せつの際については、プライバシーの確保ができるよう声かけ等実施ができています。	利用者一人ひとりの尊厳と人権尊重をあらゆる支援の基盤としている。目標達成計画票にも接遇の際、目上の人として丁寧に接することを目標としている。、管理者は特に言葉遣いについて指導、アドバイスをしており、職員は利用者の誇りやこれまでの人生を十分に尊重した接遇でもある。個人情報の確保にも運営規程に基づき、十分に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からコミュニケーションは密に図り、お話しを傾聴している。レクリエーションでは何をするか尋ねており入居者様に決定して頂くこともある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の日々の業務については時間に余裕を持たせるようにしている。可能な限り入居者様の希望や意思を尊重できるよう時間的にも精神的にも配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1度、訪問にて散髪を行っている。行きつけの美容室にご家族様と行かれる入居者様もいらっしゃる。毎日起床時に顔拭きと髪の毛のブラッシングを実施している。また着替えの準備は、なるべく本人様に洋服を選んでもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材のみ発注しており、調理は職員と入居者様で無理のない範囲で行っている。苦手なものがある方にはメニューを随時変更し本人様の嗜好に合わせたメニューを提供している。食事形態もミキサー食までは提供している。自己摂取が出来るよう自助具の検討も行っている。また食事前の体操も実施している。食事中はTVを消し音楽を流している。片付けもお盆拭きやテーブル拭きを行ってもらっている。	台所から料理の匂いが漂い、調理する音も聞こえて、利用者は食事の楽しみを増している。汁ものを注ぐお椀に柄付きの椀を使用し、利用者が食事を摂り易いような工夫もある。利用者は自分のペースで食事をいただいております、食後に談笑している方もある。職員は利用者の自尊心を刺激しない様にそっと見守りながらの食事支援である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じ介助を行っている。食事形態は主治医と相談し必要があれば変更を行っている。食事量のチェックは毎食実施している。月に1回体重測定を行い増減の観察を行っている。水分量はきちんと把握できていないが毎食時のお茶、各居室にお茶を毎日提供。またスポーツドリンクを常備しており入浴後やおやつ等に提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。介助が必要な方は職員が実施している。夕食後、義歯は預かり毎日洗浄液に浸けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎日時間毎に排泄チェック表があり排泄パターンの把握に努めている。時間毎のトイレ誘導を実施している。	利用者一人ひとりの排泄状況や習慣が把握されている。利用者のサインや排泄パターンに合わせて、そっと声かけをしながら早めのトイレ誘導である。羞恥心や不安に対する配慮を行い、自分で出来るパット使用を勧めたり、布パンツやリハビリパンツの使用で、排泄の自立に向けた支援である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事前、レクリエーション時には体操を実施している。腸の運動を促す体操を教えて頂き食事前に実施している。また水分補給も促しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	午前中に入浴の実施を行っている。声かけを行い、本人の希望で拒否があった際は無理強いは行っていない。時間帯については個々の対応はできていない。	基本的には週に3日、ゆっくりと入浴してもらっている。希望のある方には毎日でも入浴ができる。入浴時間、入浴順に特に決めごとは無く、ゆっくりと入浴してもらっている。利用者1対1の入浴支援であるが、車椅子の方には2人での支援である。入浴をおっくうる方には、次の日に入浴してもらったり、清浄等で対応している。衣服の着脱は出来るだけ自分でしてもらっている。これからの冬場には特にヒートショックにも十分に留意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前、午後に休息できる時間を設けている。室温に関しても本人様に尋ね冷暖房の使用温度を決定している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の処方箋に副作用や効能や注意点の記載があり職員が閲覧できるようカルテに保管している。また主治医、看護師と連携し観察症状等を伺い職員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事には個々の能力に応じ協力をお願いしている。レクリエーションも介入が必要な入居者様の近くに職員を配置している。月行事を毎月開催しており外食やお菓子づくり、季節に合わせた行事を実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	現在はコロナウイルス感染予防の為実施できていない。	ホームの隣には保育園があり、すぐ近くにはスーパーマーケットや病院の広い敷地内での散歩コースもあるが、今は外出が出来ない。計画していたバルーン見学やコスモス公園、ひまわり公園、シチメンソウ見学等にも出かけていない。外気浴や気分転換にもなる戸外への外出が出来ないのは残念である。	現在は仕方が無いが、家族もコロナウイルスが収束すれば、散歩やドライブなどを希望しており、その実現を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人にお金を持って頂いていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に家族との電話連絡ができるよう声かけを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には障害物がないよう環境整備している。掲示板には季節の壁紙や入居者様の作品を展示している。トイレや浴室には手すりが多く設置してあり安全性を確保している。	リビングは自然の光で明るい。無用な音も聞こえてこない。台所は対面式で調理をしながらも見守りが出来る。畳の間もある。ソファやテーブルの配置を工夫し、利用者が思い思いに過ごすことができる、新聞や本も置いてある。ギターもあり、管理者と一緒に音楽を楽しんでいる。季節にちなむ利用者の共同作品の掲示もあり、季節が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを設置し、入居者様同士でTVを視聴されたり談笑されている。また他利用者と談笑しやすいよう席の配置についても定期的に検討を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に危険物や火気以外のもので本人様を使い慣れたもの、好みの物を使用して頂けるようご家族様に説明を行っている。ベッドや棚等の配置についても本人様、ご家族様と相談し決定している。居室には備え付けの棚があるが、本人様が使用していた棚を使われている方もいらっしゃる。	家族の協力を得ながら、各居室がその方を思わせる構成になっている。利用者は自分の家として、ゆっくりと落ち着いて過ごすことができる。これまでに愛読した本や神棚を置いている方もある。置時計、カレンダー、家族との写真、お気に入りの服等これまで馴染んだ物や好みの品を活かした居室である。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの位置が分からない方のために貼り紙を廊下に掲示している。またトイレの使用が分かるよう使用中・空室の表示をし、入居者様に使用して頂いている。また時間の理解がしやすいよう時計をリビングに2か所、廊下に1か所配置している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない